

1. 学生確保

当校の入学率、2025年度77.5%、2024年度97.5%、2023年年度87.5%であり3年連続1学年定員数を下回っている。2025年度、栃木県内専門学校11校、看護系大学4校、県内1学年総定員数は1065、入学数872名（充足率82%）である。県内高校卒業生進学者のうち55%は大学進学者である。看護専門学校への入学数は426名であり専門学校の1学年定員数の充足率は68.7%である。当校は専門学校の全体の充足率を上回っているものの定員数に満たない状況である。2026年度の入学試験について、昨年度入試より導入した公募制を活用した。今年度当初、これまでの入学者数、就職状況、休学退学状況を参考に学校推薦指定校を見直し、さらに県内高校に希望推薦指定校の調査を行い決定した。年度当初、高等学校の進学担当教員向けに説明会を行い、看護職の減少や本年度の入試について説明を行った。このことにより、説明会参加の高等学校からの問い合わせが増加し、受験生増につながった。また高校の訪問により高校の進学に関する特徴、学校説明会、入試への要望などの情報を得ることができた。

さらに、他校の入学試験について情報を細かく分析し、今年度の入試を7月より開始した。学校推薦・公募推薦では32名の合格を出すことができた。

NHOの一斉一般入試の日程は県内の一般入試の実施時期よりも遅いため受験生の確保が困難であったが、今回は科目の選択が可能になったため、国語と数学を選択した。単願は国語、併願は国語と数学という試験を行った。次年度以降は日程も早まるため受験生確保について広報を含め早期検討を行う予定である。

学校説明会は全9回行った。参加者は149名（8回終了まで）である。内訳は3年生61名、2年生18名、1年生4名、社会人7名、保護者59名である。昨年度の参加者数に比べて減っている。しかし、2年生・1年生の参加者及び社会人の参加希望がやや増えている。高校生の入学試験に向けての準備が早くなっている傾向が見て取れる。また、保護者の参加も多く奨学金等への興味が高い。

次年度以降の入試日程の参考として、学校説明会、高校訪問、入学試験の日程・方法を検討する。

更に看護師を目指す学生確保のために、看護職への興味関心を高める取り組みを行うため県内NHO病院栃木医療センターと宇都宮病院では看護体験ができるイベント回数を増やし参加者に看護学校の学校説明会へとつないでもらう。また、実際の看護体験などが少ない学生も多いため、モチベーションの維持のためにも学校説明会や入試の後でも看護体験に参加できるよう薦めている。

NHO病院のPRを兼ね、高校訪問時に当センターの看護体験などを共に行いNHOについてもアピールし、長期的な学生確保を行う。

2. 看護師養成の質の維持・向上

2022年4月より、新カリキュラムとなり、関信グループの附属養成所の共通カリキュラムでの教育が進んでいる。研究授業を行い学校間で授業参観を通し、教授内容や教授方法について意見交換を行い、授業準備の参考にしている。今年度は、新カリキュラムで学習した学生の卒業年度でもある。カリキュラム評価については、NHO関東信越グループの看護学校は共通カリキュラムで運用しているため、全体の評価を行った。概ねアセスメントポリシー沿った運営ができていると評価した。

共通カリキュラムの期待される卒業生像に向け、国立病院機構で活躍する看護師の育成を行っている。看護学生にとって臨地実習は看護師になるための成長の機会でもあるため、母体病院、県内 NHO 病院、県内病院からの講師派遣や臨地実習を実施し学生の育成を行っている。実習指導者会議では、

実習の目的や内容の共有、実習での指導場面での課題の共有を行い、日々の実習指導へのフィードバックをはかる。また、外部講師による学習会を行い、実習指導への知識を高め、実践に役立てる機会を持っている。

講義については、基礎分野では大学等から講師として講義を行っている。専門分野では当校は 5 年以上の看護師実務経験のある者が教員として教授している。また、母体病院をはじめ臨床の医師、看護師、コメディカルが専門の講義を行っている。今年度、母性看護学専門の実習指導者が不足していたが助産師資格を持つ卒業生を教務助手として採用できたため、母性看護学実習（外部施設での実習）の指導が充実した。

今年度は、新人教員 1 名が配置された。前期後期に 1 科目ずつの講義、臨地実習指導は他教員とペアで指導を行う、また 2 年生の副担任や自治会活動のサポートから主の指導をと、段階的に経験し教育力を高めるようにしている。

基礎看護技術では、技術到達度表を基に学内では「基本的ベッドメイキング」「移乗介助」「車椅子での移送」「点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換」「清拭」「バイタルサイン測定」「静脈血採血」の技術チェックを行い、技術の安全で確実な習得に向けて計画実施を行っている。

結果、2025 年度の NHO 就職内定者は 26 名（就職予定者 33 名中）、県内就職者 27 名（就職者就職予定者 33 名中）、県外就職者 6 名、助産師学校進学者 1 名となった。卒業予定者 34 名の就職率は 97%（昨年度 95%）、NHO 就職率 76.5%（昨年度 84%）である。

3. 教員の教育力の質の向上

教員研究会を年 6 回、時間を確保し業務内で行い学会での発表を行っている。また、関連分野の学会への参加や研修会や講習会への参加も行っている。関東信越グループの教員が行っている授業に参加し意見交換を行い、自己の授業への還元をしている。

NHO の教員能力開発プログラム（TNAD）を用いて教員各自が強化したい能力について具体的に計画を立て取り組みを行っている。

教員インターンシップを 3 名（1 日 2 名、3 日 2 名）の受け入れを行い、教員による学生指導の実際や講義準備、学級運営等の実際を知る機会を設けた。日頃の業務を言語化することにより新たに改善することなどを見出すことができる機会であるので今後も継続する。

人間総合科学大学より看護教員養成コースの教育実習を受け入れた。当校の教員も指導をとおして自己の教育の在り方や不足することなどを知る機会になり、今後も看護教員の養成を受け入れていく予定である。

4. 健全な学校運営の実施

自己点検・自己評価を中間、最終の 2 回実施し学校運営と教育の評価を行っている。講義計画や実習状況、実習要綱等の見直しを教員会議で適宜見直しを行っている。今年度は次年度に向けたシラバスを具体的な表記に修正し学生や外部講師にもわかりやすいものに変更した。

5. 地域に貢献する教育活動の実践

今年、宇都宮市内の小中学校が行う職業体験の受け入れと、中学校 1 年生の自主研修の受け入れを行った。看護学校の概要説明と実習室での技術体験、シナリオシュミレーターを用いての聴診(心音、呼吸音)技術や脈拍測定、赤ちゃんの抱き方、車いす体験等を行った。医療職への興味を持ち将来的に、医療分野や看護職を目指す人材確保につながる可能性がある。

栃木県内の高等学校からの指名で、進学ガイダンス(各高等学校や会場ブース)に出向き、看護師養成所における教育の内容と学校紹介を行うことができた。

課題：

栃木県内の 18 歳人口の減少に伴い、当校の定員数の確保が難しい状況にある。今年度の入試も年度途中で追加入試を検討し実施した。

次年度確実に受験生を確保するために募集活動及び入試方法を計画し実施する。また、母体病院と連携し長期的な看護師志望者の確保を行う。